

月刊

2017

12

月号

みんぱく

特集

20世紀 革命の足跡

ロシア革命100周年 韓敏
浸透した社会主義、温存された習慣 辛嶋博善
シベリア先住民にとってのロシア革命 渡邊日日
中央アジアの人びとが経験した社会主義 藤本透子
東欧での社会主義革命とその痕跡 マリア・ヨトヴァ
太鼓がみる夢 細谷広美

革命の遠いこだま

沼野 充義

プロフィール
1954年東京都生まれ。東京大学教授。ロシア、ポーランド文学を中心に、近現代世界文学を研究する。たわら文芸批評にも携わる。著書に『徹夜の塊「命文学論」』（作品社、サントリー学芸館）、『チェーホフ七分の絶望と三分の希望』（講談社）、『訳書にウラジーミル・ナホコフ『賜物』（河出書房新社）、『スタニスワフ・レム『ソラリス』（早川書房）など。

「私は二〇歳」というソ連映画がある。一九六〇年代のモスクワを舞台に、不安と希望の入り混じった若者たちの日常を、新鮮なアングルから抒情的に描き出した傑作だ。監督はマルレーン・フツイーエフ。フツイーエフという姓はグルジア（現在の表記ではジョージア国）の苗字フツィシヴィリの語尾がロシア化したものという。彼はトビリシ生まれのグルジア人なのだ。それではマルレーンのほうはどうか。名女優マ（ル）レーネ・デイトリヒを思い出して、西欧風のお洒落な女性名かと勘違いする向きもあるかもしれないが、いやいや、監督は極めて精悍な風貌の男子だ。

この名前、じつはマルクス（Marx）とレーニン（Lenin）の前半を組み合わせた、新造語ならぬ、「新造名」なのである。理想社会を実現しようというユートピア的な希求がみなぎっていた革命直後のソ連では、今では珍妙にしか聞こえないこの種の「新造名」が流行った。一九二五年生まれのフツイーエフもその世代。役所名から、団体名まで、すべてこの種の「新造語」みたいな略称で呼ばれた時代であり、未来主義者の「ザウミ」（超意味言語）の「とき」が新奇な響きが町に氾濫していたのだ。

他にどんな人名が考案されたかという、例え

ば、ヴィレンは「ウラジーミル・イリイチ・レーニン」を縮めたもの。ヴィロリクというのはもつと手が込んでいて、「ウラジーミル・イリイチ・レーニン」は労働者と農民の解放者」という文を構成する単語の頭文字をつないだ。「電化」を意味する普通名詞「エレクトロフィカツィヤ」は、そのまま女性名になった。なにしろ、「共産主義」とはソビエト政権プラス全国の電化である」とレーニンが高らかに宣言したのだから、この「電子ちゃん」は時代の華だったはずだ。

革命は政治体制を根底から引つ繰り返すことだけではなく、生の全面的な改造をも目指した。革命政権は経済だけでなく、言葉をも作り変えた。とはいえ、革命直後のこの種の「キラキラネーム」、とつづく昔に廃れてしまい、現代のロシア人の名前は革命前と同様、ウラジーミルとかマリヤといった伝統的な名前ばかりに戻ってしまった。その大部分は教会暦に登録されている聖者の名前である。革命の夢は遠くなった。革命的ロマンを感じさせる名前を持った人がわずかに生き残っていて、その遠いこだまを伝えるだけだ。フツイーエフ監督も亡くなったという話は聞かないので、まだグルジアのどこかで、ワインを飲んで饗饗と老後を楽しんでいるものと思いたい。

月刊
みんぱく

12月号日次

- | | |
|---|--|
| <p>1 エッセイ 千字文
革命の遠いこだま
沼野 充義</p> <p>特集 20世紀革命の足跡</p> <p>2 ロシア革命 100 周年
——中国革命の契機と社会主義近代化の模索
韓 敏</p> <p>4 浸透した社会主義、温存された習慣
——モンゴル遊牧社会への影響
辛嶋 博善</p> <p>5 シベリア先住民にとってのロシア革命
渡邊 日日</p> <p>6 中央アジアの人びとが経験した社会主義
藤本 透子</p> <p>7 東欧での社会主義革命とその痕跡
——「国家食」へのノスタルジア
マリア・ヨトヴァ</p> <p>8 太鼓がみる夢——南米チリ
細谷 広美</p> | <p>10 OOLてみました世界のフィールド
インド人と食の観念
菅野 美佐子</p> <p>12 みんぱく Information</p> <p>14 想像界の生物相
祖先と敬われる毒蛇
——台湾バイワン族の意匠
山田 仁史</p> <p>16 新世紀ミュージアム
滋賀県立琵琶湖博物館
卯田 宗平</p> <p>18 手芸考
手仕事だから安い世界
——インド北東部アッサムの野蚕糸から
上羽 陽子</p> <p>20 ながなんちゃ
外から来た名前
浜田 明範</p> <p>21 次号予告・編集後記</p> |
|---|--|

特集 20世紀 革命の足跡

100年前にロシアで起こった革命は、マルクス主義に基づく社会主義社会の実現を目指す政権を、人類史上初めて誕生させた。その影響はヨーロッパ、アメリカ、アジア、アフリカにも広がり、モンゴル、中国、チリ、中央アジア、東欧などに革命政権の誕生を促した。本特集では、西欧的近代化に対して、もうひとつの近代化の選択肢としてスタートした社会主義革命が100年のあいだ、どのような足跡を残しているのかについて、世界各地の例から見てみたい。



中国の記念メダル
(左上から時計まわりにマルクス、エンゲルス、レーニン、スターリン、毛沢東。H0268406~H0268410)

ロシア革命一〇〇周年

——中国革命の契機と
社会主義近代化の模索

韓敏 民博超域フィールド科学研究部

世界初の社会主義革命の達成

ロシア革命は、一九一七年一〇月二十五日（ロシア暦）、ペトログラードで起きた労働者や兵士による武装蜂起を発端として始まった。第一次世界大戦のさなか、後進国のロシアで労働者と兵士は各地に形

なった。彼女たちの労働が現金化され、家庭経済への貢献も可視化された。「男は外、女は内」という伝統的な性別分業が崩れ、女性たちは家庭内と社会において、「天（社会）」の半分を支える存在となった。それまで男性の名前に使われた石、力、智、剛、博などのような社会で活躍するのに必要な素質をあらわす漢字が、現在は女性の名前にも使われている。じつはわたしの名前「敏」もそうだ。
一九七〇年代までの中国では、ロシア革命記念日が近づくと、「列寧在十月」というソ連の映画を見るのが職場や学校での慣例だった。当時の老若男女は、映画の登場人物に夢中になり、台詞までよく覚えていた。毛沢東が亡くなり、社会主義

成されたソビエトに結集し、レーニンを議長とする人民委員会設立し、世界初の社会主義政権を樹立した。その目標は、当初の自由と平和の実現から、労働者による生産の統制、地主の土地の没収、階級制の廃止、軍隊の民主化、民族自決権の実現へと発展した。特に内戦と連合国による干渉戦を経て、工業の国有化、農業と商業に対する国家統制が実施され、プロレタリア独裁の強力な国家が作り出された。

ロシア革命のモデルは、一九一九年に発足した共産主義インターナショナル（コミンテルン）という政治的しくみをとおして、二〇世紀の国際社会にあらたな要素をもたらした。帝国主義的世界秩序からの独立と民族解放を目指す政党が各地で結成され、革命の波紋が広がった。そのなかで、中国におよぼしたインパクトがもつとも大きかった。

現在に見る革命の余波
一方、革命の歴史は完全に風化したのではなく、観光や芸術などの分野で形を変えて、表象され、流通している。レッドツーリズムがその例である。二〇〇四年に国家旅游局によって始められた革命事業（紅色革命）ゆかりの地をめぐるこのキャンペーンは、現在年間延べ一〇億人以上を動員する一大イベントに成長している。革命ゆかりの地は経済発展から乗り遅れた地域が多く、こうした観光には歴史教育と地域の開発に役立つという二石二鳥の狙いがある。

ヨーロッパの国も中国人をよび込むためのコース

開拓を進めている。そこにはドイツの町トリアにあ

中国における社会主義国作り

一九二二年、コミンテルン支援の下に中国共産党が誕生し、一九四九年に中華人民共和国が樹立した。初期の中国は、ソ連をモデルに土地改革、工業、商業の国有化を実施したが、徐々に革命観の違いや国際政治上の意見対立が目立ち始めた。その後、文化大革命、人民公社の解散、国营企業の民営化などをおこない、独自の社会主義の道を模索してきた。

中国の革命は、男尊女卑やヒエラルキーの社会構造、法制度などにも巨大な変化を与えた。例えば、一九五〇年に新婚姻法の公布により、自由な結婚・離婚、家庭内の男女間の平等な地位と権利が法律で保障された。そのうえ、女性は国の重要な労働力とされ、男性と同じように社会進出するよう

るマルクスの生家・マルクス博物館、ロシアの赤の広場、レーニン廟などが含まれる。二〇〇九年に毛沢東の生家がある湖南省とレーニンの生家があるロシア・ウリヤノフスク州は友好都市を締結し、そこにある毛沢東記念館とレーニン記念館も友好関係を結んだ。二〇一六年訪口中国人客は延べ一〇七万三〇〇〇人、訪口外国人客のなかで一位、訪中のロシア人観光客は二八万三〇〇〇人になり、訪中外国人客のなかで四位となった。

二〇世紀は、西欧的近代化の時代であり、また資本主義近代化に対するもうひとつの選択肢としての社会主義運動と政権が出現し、試行錯誤した時代でもあった。ロシア革命から影響を受けた中国の革命は人びとの生活の隅々まで影響を与えた。為政者にとって大胆な社会実験であり、民衆にとって壮大、悲壮な社会実践であった。ユーラシア大陸に起こった革命が残した遺産や人類に対する影響を評価するのは、一〇〇年を経た現在でもまだ早いだろう。



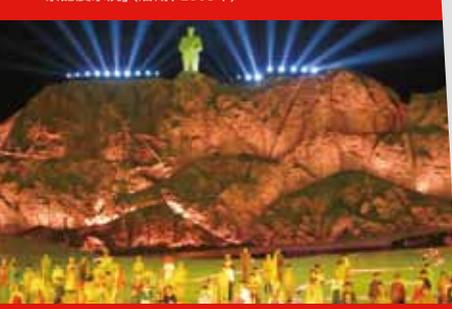
社会主義新農村のモデルとされる江蘇省江陰市華士鎮華西村の村民住宅（2014年）



「世界一豊かな農村」とされる江蘇省江陰市華士鎮華西村の公園にある革命家の彫刻。左から鄧小平、周恩來、毛沢東、朱徳と劉少奇（2014年）



1970年代までの人民公社をモチーフにしたレストラン「蔡記農家院」（瀋陽、2003年）



野外劇場で上演中の毛沢東と革命をめぐる演劇（湖南省韶山市鉄皮村、2014年）



毛沢東の生家の近くにある毛沢東像（湖南省韶山市韶山村、2014年）

浸透した社会主義、温存された習慣

—モンゴル遊牧社会への影響—
辛嶋博善 北東アジア地域研究国立民族学博物館拠点 拠点研究員

そこに暮らす遊牧民という光景は、既に社会主義体制の崩壊から四半世紀を過ぎ、日本でもよく知られたものとなっている。現在目にする事ができるモンゴル遊牧社会はもろん伝統社会そのものではなく、少なくとも社会主義時代の影響と民主化以降の変化の末に出現したものである。

遊牧社会への社会主義の浸透

一九二一年に独立を果たしたモンゴルは一九二四年に人民共和国となり、一九五〇年代後半に集団化を完成させた。集団化によって協同組合や国营農場が作られ、遊牧社会は社会主義圏の畜産、特に食肉産業の末端となり、遊牧民は協同組合員として生計を立てていくことになったが、こうした状況は社会主義体制が崩壊する一九九〇年ごろまで続いた。この間遊牧社会も変化していったが、その変化は社会主義革命そのものよりも、むしろ革命後に推進された政策と関係している。例えば、行政区画の変更によって遊牧民の季節移動の距離が短くなったところもある。そして、草原にさまざまな設備が作られていった。春営地には固定の風雪除け付き牧柵が多数設けられるようになり、



社会主義時代に作られた井戸。ハンドルを回転させることで水が出るしくみになっている。現在では故障したまま修理されず、モーターと発動機を使ってくみ上げることもある(2014年)



移動式住居(ゲル)の内部。現在では室内に絨毯が敷かれることが多い。写真左側がホイモルにあたる(2010年)

家畜にも利用される井戸が作られた。こうした井戸には回転式の大きなハンドルの付いたものや電動モーターの付いたものがあつた。食生活に関しては、乳製品と肉を中心とした暮らしに小麦粉や野菜が加わった。個々の家に目をやると、あらたな工業製品がおかれるようになっていく。フェルトの敷物は絨毯になり、竈は五徳から煙突付きのストーブに代わった。移動式住居(ゲル)自体も工業製品となっていく。こうした新しい設備や工業製品は土着の技術を衰退させる一因ともなったが、社会主義という新しい時代の象徴であつたに違いない。これらも多くは現在も使われており、社会主義の残影とよぶことができよう。

遊牧の存続と習慣の温存

ただ、社会主義は遊牧社会を変えただけなのであろうか? こうしたあらたな政策や製品の流入はあくまでも牧畜社会の存続を前提とした「発展」であつた。モンゴルにおいて、社会主義時代を通じて

シベリア先住民にとってのロシア革命

渡邊 日 東京大学教授

複合革命としてのロシア革命

シベリア先住諸民族にとって一九一七年のロシア革命、それに続くソビエト社会主義共和国連邦の誕生は、比類なき歴史的転換点であつた。フランス革命が少なくとも歴史家ジュールジュ・ルフェールにとって複合革命であつたように、ロシア革命もまた複合革命の性格を有している。この場合の「複合」とは、賃金の不平等を是正する都市(労働者)革命、土地所有の不平等を是正する農村(農民)革命、諸民族の平等を目指す民族革命、男女平等を実現しようとするジェンダー革命などを含めての複合性であるが、どの側面においても先住諸民族のその後の生を強く方向付けた。

シベリア先住民にとって

父系制を主軸とした革命前の社会構造およびそこに出現していた家父長的性質は、ソ連時代に超克すべき過去の遺制とされ、実際に先住民は二〇世紀において家族構造の転換(女性・妻・母の社会進出、核家族化など)を経験した。そうした制度的変更にとどまらずメンタリティーが付随しているかは今でも問われよう。先住民にとって都市革命は、国の産業化のなかで都市への長期的な人口集中というプロセ



小学校でのブリアート語の授業風景。ロシア系市民も学んでいる(ブリアート共和国首都ウラン=ウデにて、2004年)



公的な催して民族文化が歌や踊り、衣装の形で表現される(ウラン=ウデにて、2007年)

スを意味することになったが、この過程は、現在の「極集中化(シベリア・極東から西への人口流出)」というロシア全体で観察できる傾向でもある。その背後には、人工的に農村を作り、そこに集約的な生産拠点を配備して定住化を図った農村政策が、結果的にはソ連解体後、農村からの人口流出を急速に促す要因になってしまったという逆説がある。

先住民の多様性

シベリア先住民への民族革命の影響は一言では論じられない。一九世紀末からの民族運動の成果および二〇世紀初頭における「文明度」などによって大きく異なり、ブリアート人やサハ(ヤクート)人らのように、(自治)共和国という形で独自の高度な自治単位を得た先住民と、ナーナイ人やニウフ人らのように自治単位をもてなかった先住民とにわかれた。二〇世紀ソビエト史は、社会主義革命と同時に、民族を構成単位としたソビエト型連邦制の成立によつても形成されているのである。自

治単位なしの諸民族において、民族文化の維持ははるかに困難であり続けた。さらにソ連時代、「言語建設」、当該民族のそれまで存在しなかつた標準文章語の作成という言語革命も実行されたが、先住民の少数言語の使用はごく限られた場面にとどまった。ソ連解体後、多言語教育が推奨され、言語復興の動きがありながらも、シベリア先住民の諸言語の今後は決して明るくない。自治単位をもたなかつた諸民族の諸言語は危機的であり、ブリアート語やサハ語においても楽観視できない状態である。

ロシア革命は、それが生み出したソビエト連邦の終焉とともに忘却の対象となつてはいるが、他方で、その残影はシベリア先住民の今を、文字どおり影から、それも強い影となつて形作つていっているといえよう。その影は、今後も当分のあいだは消えることはないであろう。

中央アジアの人びとが 経験した社会主義

藤本透子

民博 人類文明誌研究部

革命と粛清の記憶

中央アジア五カ国（カザフスタン、キルギス、タジキスタン、ウズベキスタン、トルクメニスタン）は、一九九一年にソ連からの独立を宣言した。その七年後の一九九八年、初めてカザフスタンを訪れたとき、旧首都アルマトウのどこにもレーニン像は見当たらなかった。聞けば、レーニン像は独立後も撤去されたという。二〇〇三年になって、カザフスタンの地方都市の通りでレーニン像を見かけたが、忘れ去られたかのように放置されたその像は傷みが激しかった。少数の例外を除いて、中央アジアの街からレーニン像はほとんど姿を消している。

社会主義を象徴していたレーニン像がこうした扱いを受けるのは、中央アジアの人びとがソ連時代に経験したイデオロギー上の統制や粛清という負の側面を思えば、ある意味で当然であるのかもしれない。一〇〇年前のロシア革命は、中央アジアにも大きな影響をおよぼし、知識人たちは自治を求めさまざまな活動を展開した。しかし、ソ連成立後、一九三〇年代になると、彼らの多くは民族主義者として粛清されていった。また、社会主義に基づく近代化を目指して、あまりに急激かつ強制的に進められたカザフ遊牧民の定住化政策は、



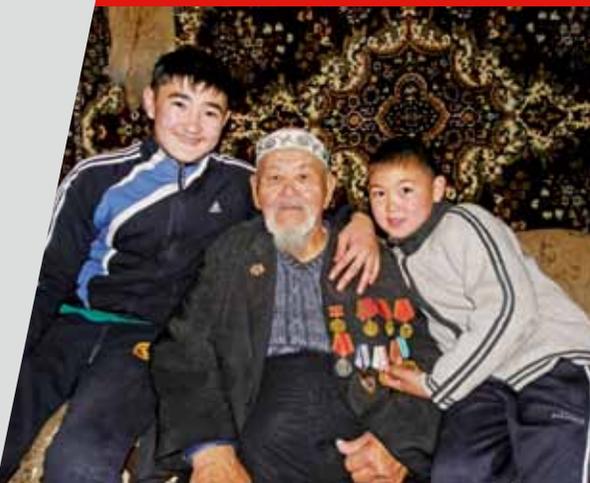
カザフスタンのカラガンダ市に残るレーニン像（2003年）

大規模な飢餓を引き起こし、多くの犠牲者を出した。さらに、政府によって反宗教宣伝が繰り返され、多くのムスリムが集まって礼拝することや、イスラーム祭日を大規模に祝うことなども制限されていた。

ソ連時代を生き抜いた証としての勳章

ただ、こうした負の記憶の一方で、一九六〇〜八〇年代前半にかけて、社会主義の下で比較的安定した暮らしが実現したことを、六十〜八十歳代の人びとは懐かしそうに回顧する。国营の農場や商店などで働き、その功績や卓越した技術が表彰されたことを誇りにする人も多い。

例えば、カザフスタンの村でひとりの長老の家を訪ねたとき、孫との記念撮影の際に着るようにと家族がもってきたのは、数々の勳章や記章が付けられた背広だった。労働赤旗勳章には、「ソ連」と書かれた赤旗と、労働者を象徴する鎌とハンマーが刻まれている。そのそばには、レーニン生誕一〇〇年を記念する記章も付けられていた。



ソ連時代の勳章・記章を付けて孫と記念撮影するカザフ人の男性（2013年）

また、村のムッラー（イスラーム知識人）として尊敬を集めていた別の長老（故人）は、二〇〇〇年代に集団礼拝をとりおこなうときに、いつもソ連時代の勳章や記章を付けた背広を着用していた。イスラームと社会主義はイデオロギー上は相容れないが、勳章・記章はソ連時代を生き抜いた証として、そしてイスラームは現在を生きる指針として、いずれも長老にとっては大切であったのだと思う。

政治体制の急速な転換のかけで、ソ連成立以前から現在に至るまで人びとの暮らしは続いてきた。レーニン像や勳章・記章などを、中央・北アジア展示のために収集する過程で、社会主義を中央アジアの人びとの暮らしの文脈でとらえ直す必要性をひしひしと感じた。ロシア革命とそれに続く社会主義時代の評価は、今なお古くて新しい問題であり続けている。

東欧での社会主義 革命とその痕跡

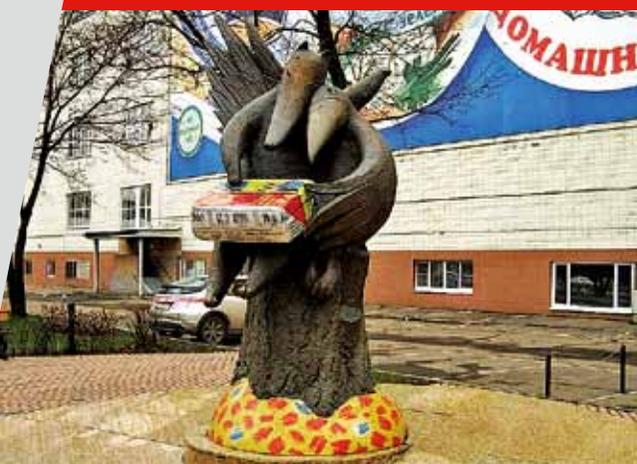
「国家食」へのノスタルジア
マリア・ヨトヴァ 関西学院大学非常勤講師



「社会主義の博物館」の目玉展示品である「トラバント」。東欧社会主義圏で愛用された小型乗用車（2015年）



今でも当時のパッケージと商品名で販売されている「ロクム」という菓子（2016年）



「ドルジバ」というチーズの記念碑（モスクワ、トマ・バヤテフ撮影、2010年）

一九八九年の社会主義の崩壊は、旧ソ連圏では政治的・経済的・日常的生活などあらゆる面において劇的な変化をもたらした。東欧諸国の人びとは、教育と医療サービスの有料化、国营企業の民営化や工場閉鎖による高い失業率、就労機会の減少を経験することとなり、激動の生々しい変化にさらされていた。ブルガリア人である筆者も、当時の高校生時代に、一時的に両親の失業を目の当たりにし、社会主義期に経験したことのない食料不足や食品の価格暴騰に大きな不安を覚えた。

国家権力と結び付けられた食

社会主義時代当初より、国家は国民に栄養価の高い食品を供給するため、高度な食品産業の構築を最重要課題としていた。当時の指導者は、料理を科学的な部門として扱い、化学や生理学に基づいて改革を進めていった。そこで、調理法や栄養基準の確立、給食の整備、国家規格の制定など、従来の食のシステムが根本的に変わっていった。このような国家政策のもとで、食料の大半は大規模

な協同組合農場で生産され、国家基準に従い国营工場で処理され、人為的に安く販売されていた。その統制は外食産業にまでおよんでいたため、各飲食店は国家の定めた献立や価格表、原材料や調理法に適應するよう義務付けられていた。こうした全面的な統制や安価な食料の分配は、人びとの食生活を政治的領域へとつなげて国家に依存させるものであった。

自由化された食

民主化以降の東欧諸国では、大型スーパーや輸入食品売り場の設立、魅力的に包装された商品の出現、エスニックレストランやファストフード店の進出など、欧米諸国と同様の食の生産・流通・消費システムが整備された。そこで、消費者は無数のあらたな商品を目の当たりにし、社会主義時代にはなかった食品がいつでも入手できるようになった。

しかしその一方で、この多様性こそが多くの消費者にとって悩みの種でもある。どの製品が添加物や遺伝子組み換え成分を含まないのか、それを安心して子どもに食べさせればよいのかなど、食品の品質への疑問の声が増え間なく上がっている。賞味期限切れの冷凍牛肉輸入事件（ブルガリア）や発がん性物質含有のパプリカパウダー流出事故（ハンガリー）などの不祥事は、あらたな食システムは必ずしも食品の品質改善へと通じるのではなく、健康上の危険性をもたらすこともあると示している。

このように、グローバルな食システムの不完全性や不平等性、またそこで生まれるあらたな権力構造について幅広く認識されているなかで、皮肉にも、今や一部の人びとのあいだでは、社会主義国家の統制は食の安全性や国民の「安らかな生活」

の保証として受け止められているのである。

国家規格を求める消費者

ブルガリアの首都ソフィアで家族経営の菓子屋を営む友人によると、ブルガリア人はケーキでさえヨーグルトと一緒に食べるといふ。彼女から、二〇一〇年三月に二通のメールが届いた。政府が社会主義期に存在していたヨーグルトの国家規格を復活させようとしており、ブルガリアではそれがトッブニュースとなっているということであった。社会主義時代は選択肢がごく限られていたが、その一方で、基本的な食品については国家規格で作られ

た安価で安全なものを購入できるしくみのため、消費者として安心であった。彼女とその両親にとって、国家規格の復活は、安全な食生活を送るために必要なだけでなく、社会主義時代の「安らかな生活」のリズムをとり戻すものでもあるのだ。

社会主義時代の食へのノスタルジア

東欧諸国で社会主義に対するノスタルジアがいかに広まっているかについては、当時存在していた「ドルジバ」というチーズが二〇〇五年に復活した際、モスクワにこのブランドの記念碑が建てられたことや、二〇一五年にブルガリアの黒海沿岸の最

大都市ヴァルナに「社会主義の博物館」が開館したことからもわかる。また社会主義時代に生産されたソーセージやアルコール飲料、菓子類などの商品名は、今では資本主義の論理に沿ってブランド化され、消費者のあいだでは定評がある。

このように、社会主義革命は人びとの日常生活

において国家規

格の復活や食品

へのノスタルジ

アとして今もな

お足跡を残して

いるのである。



社会主義時代から味も箱のデザインも変わらない人気のチョコレート「アムフォラ」(2016年)

太鼓がみる夢——南米チリ

ほそやひろみ
細谷広美

成蹊大学教授

社会主義政権の誕生と崩壊

南米チリは、一九七〇年に世界ではじめて自由選挙によって社会主義政権が誕生した国である。しかし、冷戦下、アメリカ合衆国はラテンアメリカにおける共産主義の拡大への警戒を強めていた。一九七三年、CIA(中央情報局)の支援を受けたアウグスト・ピノチエト将軍が軍事クーデターを起こし、サルバドル・アジェンデ



上、下：マプチェ民族博物館(2010年)

大統領は大統領官邸で死亡した。

以後チリでは一九九〇年まで軍事独裁政権が続く。

この間、共産主義分子とみなされた人びとは逮捕、拷問の後殺害され、多くの行方不明者が出た。

映画では優れた航海技術をもつ水の民であった先住民の姿が、彼らの記憶を辿りつつ詩的な美しい映像で描かれる。しかし、他方で、ヨーロッパ系の人びとが、先住民たちの糞丸ひとつ、乳房ひとつに値段をつけ先住民狩をおこなったこと、国民国家の形成過程で先住民の文化的ジェノサイドがおこなわれてきたことが静謐な語り口で描かれる。チリが経てきたこれらの歴史に、ピノチエト軍事独裁政権下での行方不明者の存在が加えられる。鉄道のレールを重石としてヘリコプターから海に投げ捨てられたが、たまたまレールが緩んではなかったことであらわれ出た「行方不明者」の若い女性の白いポタンが、真珠のポタンと重ね合わされる。

もう一人のジェミー・ポタン

チリの人類学者クラウディオ・ゴンサレス博士とともに先住民マプチェの人びとの地を訪れた際、もう一人のジェミー・ポタンの存在を知った。マプチェのリーダーの一人であったモデストさんは、アジェンデ社会主義政権下で先住民の代表の一人としてソビエト連邦を訪問した。しかし、ピノチエト将軍による軍事クーデターが起こり、帰国できなくなつた。軍事独裁政権下、マプチェは存在しない民族とされ、土地の収奪が進んだ。モデストさんは東ドイツに送られた。その後モデストという偽名を用い、偽造パスポートによって命がけで密かに家族のもとに帰ってきた。なぜ、「モデスト」という偽名を用いたのか、という家族の問いに「俺は、慎み深い(Moderato modesto)からだ」とユー

モアたっぷりに答えた。

民政移管がおこなわれたとはいえ、新自由主義政策の下、マプチェの地では多国籍企業による土地の収奪が進んでいる。反対するデモに参加したあるマプチェの若者は逮捕され、ピノチエト時代の法のまま一五年という不釣り合いに重い刑を求刑された。逮捕されたとき、結婚したばかりの若い妻は身重であった。マプチェ民族博物館長の娘婿にあたる。

首都サンティアゴに戻り、数日前にマプチェの宗教的職能者マチ(Machi)が儀礼において叩いていた太鼓クルトゥルン(Kultun)が、博物館のガラスケースの向こうに陳列されているのに遭遇した。ふと、太鼓はそこで何を伝え、何を伝えないので、という思いにとらえられた。



修復された大統領官邸モネタ宮殿。1973年9月11日アジェンデ大統領はここで命を落とした。もうひとつの9.11でもある(2008年)

真珠のポタン

日本でも公開された「真珠のポタン」(二〇一五年)は、数々の賞を受賞してきているパトリシオ・グスマン監督のドキュメンタリー映画である。監督自身も軍事独裁政権下亡命を余儀なくされた。タイトルは、真珠のポタンと引き換えにビーグル号に乗船し、イギリスに行ったジェミー・ポタン(一八一五〜一八六四年)という実在のパタゴニア先住民の物語からきている。彼はイギリスの生活に適応できないままパタゴニアに戻った。



クルトゥルンを叩くマプチェのマチ(2008年)

〇〇してみました世界のフィールド

インド人と食の観念

菅野 美佐子

南アジア地域研究国立民族学博物館拠点 拠点研究員



インドで和食を振舞ってみました
「美味しい」と気を遣ってくれた女性たちと筆者（2006年）

インド滞在中にお世話になった家族に日本食を振舞うことにした。美味しい和食を作りたいが、材料ひとつ選ぶにもインドの習慣や観念を考慮する必要があり、メニューを決めるのも一苦労。和食を作りながら感じたインドの食文化を紹介する。

日本でエスニック料理が流行り始めたのはいつのころからだろうか？ 最初のころ、わたしは未知の味を恐る恐る口にしているのは戸惑った。感動したりしたものだ。しかし二〇〇三年にインドで長期滞在していたとき、今度はわたし自身が現地の人びとに日本料理を振舞い、彼らが未知の味を口にするという経験をした。

当時わたしは、北インド農村のある家族の家に居候していた。その家の料理担当はお母さんと三五歳の長女で、わたしはもっぱらその料理をいただくだけ。ちゃんと理由がある。村では鎌状の湾曲した刃が付いた足踏み包丁に野菜を押し当てながら切ったり、土かまどに牛糞や糞を乾燥させた燃料をくべながら火加減を調整して煮炊きをする。そうした調理方法も、味の決め手となる香辛料の絶妙な配合もわたしにはわからず、下手に手を出せば料理が台無しになる恐れがあったのだ。しかしある日、日本料理を振舞うことを思い立った。彼らへの感謝の気持ちもあったし、彼らも日本料理には興味津々だったからだ。

食の禁忌という壁

そう思い立ったものの、何を作ろうか、材料はどうしようか、最初の壁に突き当たった。村の人びとはほぼ肉食である。特にバラモンなど位階の高いカーストほど、卵もとらないなど肉食主義を厳格に守っている。

をしき、さつと炒める。村の油はマスタードオイル。辛味があり香りも強い。醤油を加えて煮込む。途中で大根のよう見したが、日本の大根のようには柔らかくならず味も染みていない。日本のものとは素材の味も違えば、みりんや酒



糞を丸めた調理用の燃料（2004年）



鎌状の足踏み包丁で野菜をカットする（2004年）



土かまどでマスタードオイルを熱している（2004年）

の繊細な甘みも出汁のコクも出ない。焦ったわたしはコクを出そうと余計に砂糖を足した。すると女性たちから「ああ、あんなに砂糖を入れるなんて。料理が甘くなるわ。いったいどんな料理なのかしら」と驚きと不安の入り混じった声が出た。村では甘辛い料理など食べないのだ。

いよいよ試食のとき。大人たちは「美味しい…。わたしは料理に砂糖は入れないけど、グジャラト州の人は入れるのよ」と気を遣ってくれたが、表情はどうやら引きつっている。一方、子どもたちは正直だ。一口食べて「全然美味しくない！」とぎゅぱり断言された。

食事を通じて育む絆

その後もこの村に二五年近く通い続けているが、わたしが日本料理を作ったのは後にも先にもこの一回のみとなった。しかし、インド社会には同じ食事を食べる共食の実践によりそれを食べた人たちの絆を確認し強化するという特徴がある。また、同じかまどで料理をすることが世帯、すなわち家族の単位ともなる。浄不浄観念が強い社会において、よそ者のわたしが彼らの調理場で料理をさせてもらえたことや、わたし自身が食事を振舞い、またそれを食べてもらえたことで、彼らとより深い関係をつくるきっかけになったと思っている。料理（の味）は拒否されたが、わたし自身は受け入れられたのだ。今でも村に行くときどきあの当時のことが話題に上る。「日本料理は甘ったるかっか」と。

牛はヒンドゥー教で神格化されている一方、鳥や豚、魚など死んだ生き物への接触は不浄とされる。わたしが居候した家は、この地域ではバラモンに次ぐ上位カーストで、卵や肉を稀に食べることはあっても、肉専用の調理器具や食器を使用するなど、普段使うものに不浄が移らないように細心の注意を払っていた。

わたしの手元には家族が送ってくれた乾燥したけや醤油、だしの素などがあり、現地の料理が美味しかったので使う機会もなく残っていた。しかし、出汁にはカツオの粉末が入っている。乾燥したけでも出汁はとれるが、地元ではキノコ類は不浄とされる豚が食べるものだと思われる。悩んだ挙句、野菜の煮物を作ることにした。具にするのはジャガイモ、ニンジン、現地語でボラとよばれるサイインゲンのような野菜、そして玉ねぎ、大根。味付けは、醤油と砂糖で日本の甘辛の味を再現することにした。



村の調理の様子（女性の左側後方には牛糞燃料の入った袋が置かれている。2006年）

未知の味、WASHOKU、

料理を始めると、近くに住む親族の女性たちもやって来て手を貸してくれながら、どんな不可思議な料理を食べさせられるのかと好奇心と不安にみちた表情をしている。ニンジンや地元のフルーツの材料だし、大根は生のままサラダ感覚で食べるもので、煮込んだりしない。鍋に油

開館40周年記念企画展
アイヌ工芸品展
「現れよ。森羅の生命——
木彫家 藤戸竹喜の世界」
熊をはじめとする北の動物たちからアイヌ文化伝承者の等身大の彫像まで、藤戸竹喜（1934）の主な作品をとおして、創作活動の軌跡としての背景をたどりませう。
会期 2018年1月11日（木）～3月13日（火）
会場 本館企画展示場



「鹿を襲う熊と狼」 藤戸竹喜作

開館40周年記念・カナダ建国150周年記念企画展
「カナダ先住民の文化の力——過去、現在、未来」
カナダは2017年に建国150周年を迎えました。同国と先住民との関係の変化に着目しながら、多様な先住民文化の歴史と現状、未来を紹介いたします。
会期 12月5日（火）まで
会場 本館企画展示場



北西海岸先住民トリングットの儀礼用かぶりもの

■関連イベント
ギャラリートーク
日時 企画展開催期間中の月曜・木曜14時～
会場 本館企画展示場
※申込不要、要展示観覧券
※都合により時間帯が変更になる場合があります。

年末年始展示イベント「いぬ」
2018年の干支である「いぬ」をテーマに、みんなく所蔵の資料や写真を展示し、世界各地の「いぬ」を紹介します。
会期 12月14日（木）～2018年1月30日（火）
会場 本館ナビひろば
■関連イベント
「みんなくでいぬをさがそう」
マップをもとに、展示場にいる「いぬ」を探します。マップに掲載のクイズに解答された方



張り子人形(犬張り子)

開館40周年記念学芸展
「世界のフィールドからみんなくへ」
本館の収蔵品、展示品の母体をつくりあげたフィールドワークや収集作業の様子を、本館の各展示場に展示する当時の写真から紹介します。
会期 12月26日（火）まで
会場 本館展示場

みんなく映画会
第39回フィールドシネマ「テレシジョン」
厳格なイスラームを遵守するハングラテシユの小さな村の騒動をとおして、宗教と現代文明のあり方を考えます。
日時 2月10日（土）13時30分～16時30分（13時開場）
会場 本館講堂（定員450名）
※申込不要、要展示観覧券
※入場整理券を当日11時から本館2階講堂前にて配布

連続講座
「みんなく×ナレッジキャピタル フィールドワークを語る」
この秋開館40周年を迎えたみんなくは、展示を生み出すもとなった、数多くのフィールドワークについてお話しをさせ、これからのみんなくは、興味をもっていたらしく、これからは、興味をもっています（全6回）。
会場 グランフロント大阪北館1階 ナレッジキャピタル「カフェラボ」
※要事前申込、参加費500円（1ドリンク付き）、定員各回50名
主催 国立民族学博物館
一般社団法人ナレッジキャピタル

「太平洋を歩く」
カウア飲みから日本人探検家まで」
日時 12月13日（水）19時～20時30分（18時30分開場）
講師 丹羽羽生（本館准教授）
「鶴飼技術の共通性と相違性」
日時 12月20日（水）19時～20時30分（18時30分開場）
講師 卯田宗平（本館准教授）
お申し込み・お問い合わせ先
一般社団法人ナレッジキャピタル
06・6372・6530

みんなくミュージアムパートナーズ
開館40周年記念ワークショップ
「やってみよう！ミラー刺繍2017」
ミラーに見立てた厚紙を布に縫い付け、インドのミラー刺繍の技法を体験！上級者は、スパンコールの縫い付けにも挑戦できます。
日時 12月3日（日）10時～16時30分（16時受付終了）
会場 本館エントランスホール
対象 6歳以上（9歳以下は保護者同伴）
※当日随時受付、申込不要、参加無料

みんなくセミナー

日時 12月16日（土）13時30分～15時（13時開場）
会場 本館講堂
定員 450名（当日先着順）
参加費 無料（展示をご覧になる方は展示観覧券が必要です）
第475回
オラン・アスリの家族——母系制・妻方居住・一夫多妻
講師 信田敏宏（本館教授）



フィールドワークでお世話になった家族と信田教授（左端）

マレーシアの先住民オラン・アスリは、家族や親族の濃密なつながりの中で生きています。母系制や妻方居住、一夫多妻など、彼ら家族の特徴を紹介しながら、家族とは何かについて考えます。

みんなくウィークエンド・サロン
研究者（話者）
本館の研究者が「現在取り組んでいる研究」調査している地域（国）の最新情報「みんなく」の展示資料について分かりやすくお話しします。
12月3日（日）14時30分～15時15分 本館第7セミナー室、企画展示場
カナダ先住民の文化の力——過去、現在、未来
話者 岸上伸啓（本館教授）
12月10日（日）14時30分～15時 本館第3セミナー室
「仕立物いたします」
話者 森明子（本館教授）
12月17日（日）14時30分～15時15分 本館第7セミナー室
目に見えない世界を歩く
「全盲」のフィールドワーク
話者 広瀬浩一郎（本館准教授）
12月24日（日）14時30分～15時15分 本館第7セミナー室
みんなくシンボルマークをえがく（再）
話者 山本泰則（本館准教授）
※申込不要、参加無料（要展示観覧券）
ただし、16日（日）、17日（日）、24日（日）は展示観覧券不要

刊行物紹介
■西澤治彦、河合洋尚 編
『フィールドワーク——中国という現場、人類学という実践』
風響社 3,600円（税別）
調査が可能となって30年。変貌し続ける中国に向き合い、様々な主題を掲げ、新たな方法を模索し続けたフィールドワーカー達。本書は、老壮青それぞれの立場で描く実践の記録であり、新たな人類学への大いなる挑戦である。

国立民族学博物館友の会 電話 06-6877-8893（9時～17時、土日祝を除く） FAX 06-6878-3716
http://www.senri-f.or.jp/ E-mail minpakutomo@senri-f.or.jp

友の会

友の会講演会（大阪）
会場 本館第5セミナー室（定員96名）
※当日先着順、会員無料（会員証提示）、一般500円
第473回 2018年1月6日（土）13時30分～14時40分
みんなく名誉教授シリーズ
日本文明の夜明け——梅棹忠夫と三内丸山遺跡
講師 小山修三（本館名誉教授）
一九九三年に発見された三内丸山遺跡の六本柱の巨大モニュメントは、小規模な狩猟採集段階にあったとされていた縄文時代の社会の在り方の再考をつなぐとされた。梅棹さんはこの遺跡を訪れたあと、「都市的性格が強く、その中心となったのが神殿であった」と述べました。日本の歴史を文明という一本の線上で捉えようとする、この大胆な仮説の成立過程とそれがその後の研究の展開にどのような影響を与えたかを考えます。
※講演会終了後、講師を囲んで懇談会（40分）をおこないます。
第474回 2018年2月3日（土）
タヒチとイースター島——楽園と崩壊の対比
講師 印東道子（本館教授）
東京講演会
第121回 2018年1月27日（土）13時30分～14時40分
「北東アジア地域研究拠点関連」
カザフの食と儀礼——ひとの一生を彩る草原の恵み
講師 藤本透子（本館准教授）
会場 モンベル御徒町店4Fサロン
ユーラシアの広大な草原地帯で暮らすカザフの人びと。遊牧民であった伝統を受け継ぐ彼らの食事の特徴は、乳製品や肉料理の種類の多さです。牧畜の年間サイクルと深く関わり、夏には乳製品づくり、冬には肉製品づくりと季節ごとに食は大きく変化します。また、人生の節目にも、子どものすこやかな成長や幸せな結婚生活などへの願いを込めて、草原の恵みを活かした料理がふるまわれます。本講演では、カザフの人びとの多様な食文化と食に込められた想いについて紹介します。
※講演会終了後、講師を囲んで懇談会（40分）をおこないます。
※要事前申込（定員60名、会員無料（会員証提示）、一般500円）
第90回民族学研修の旅
インドネシア、ニアス島とスマトラ島北部の住まいを訪ねる
2018年3月10日（土）～18日（日）9日間

想像界の生物相
祖先と敬われる毒蛇
——台湾パイワン族の意匠

東北大学大学院准教授 やまだ ひとし 山田 仁史



資料名 | 刺繡用の蜜蠟板 ししゅうのみつろうばん
標本番号 | H0009431
地域 | 台湾
サイズ | 幅 11cm × 奥行 5.7cm × 厚さ 2.2cm



資料名 | 壺
標本番号 | H0090220
地域 | 台湾
サイズ | 高さ 23cm × 幅 26cm × 奥行 26cm

◆◆鳥に変身する蛇?◆◆

百歩蛇ひゃくぽだという蛇を「ご存じだろうか。猛毒をもち、うっかり咬かまれようものなら百歩も進まないうちに死んでしまふ」といふ言い伝えから、その名が付いた。生息地域は台湾から中国南部およびベトナム北部にかけてであり、体長は一メートル前後、三角形の頭部には尖とがった鼻が上を向いている。実在する動物とは異なるものの、この蛇は台湾原住民の想像界でおおきな役割を果たしている。

例えば多くの民族において、百歩蛇は「長老」ないしは「祖先」をあらわす敬称でよばれ、とらえたり殺したりしてはならないと伝えられているほか、その身体から芳香を発するとか、人間のことはを理解するとか、果ては老いと鳥に変身するなど、奇想天外なイメージネーションをかきたててきたのである。

そうした崇敬がもつとも強いのがパイワン族とルカイ族である。いずれも貴族と平民の階層をもつ社会であり、

とりわけ貴族階級の織物や彫刻など多様な品々にこの百歩蛇がデザインされている。その背後には、次のような神話の存在があった。

大むかし、太陽が天から降くだって壺つぼのなかに卵を生んだ。百歩蛇が来てこれを温めたところ、卵から人間が生まれた。この人間が、貴族の長たる頭目家の祖先である、というのだ。

実際、両民族の聖なる壺には百歩蛇があしらわれていることも多く（右頁下）、この蛇と祖先の姿とが、もつとも頻出する文様モチーフである。またルカイ族とパイワン族には、ほかの台湾原住民族と同じく首狩くびかりの風習もあったため、人間の頭部もいろいろな器物の意匠にあらわれる。その人物像が、はたして祖先をあらわすのか、それとも首狩対象としての敵人を意図したものであるのか、区別がつかないことも少なくない。

◆◆時を超える神話◆◆

しかし、今回とりあげるパイワン族の「刺繡用の蜜蠟板」(右頁上) 中心部にほ

どこされた人頭表象は、祖先を示すものと考えてよさそうだ。きわめて武勇にすぐれた過去の頭目を、祖霊たる百歩蛇がとりまいている、という図案だろうと思われる。

この蜜蠟板は木製で、赤・黒の漆が塗られている。かつては祈禱用具だと誤解されたこともあったが、正しくは裁縫に使われた道具で、針がなくなってしまうのを防ぐため、ちよつと刺しておくという用途もあった。しかし主目的は糸扱いとあきである。つまり裏面に蜜蠟を付け、そこに麻糸をあてつつ前後にギョツギョツと糸を扱いて、糸に蜜蠟をあたえ滑らかにするのだ。それによって糸は美しく光沢を増すだけでなく、ほつれにくくなるのである。

現代のパイワン族は、こうして伝統的手法で作られた服飾をふだん身に着けているわけではない。けれども原住民出身の芸術家たちは、前衛的な作品を一方で生み出しながらも、他方では百歩蛇などルーツにかかわるモチーフをしばしば扱っている。神話は時を超えて、彼らのアイデンティティを支え続けているようだ。

新世紀ミュージアム

琵琶湖のほとりに位置する滋賀県立琵琶湖博物館では、漁具の実物やしくみの紹介だけでなく、人と魚のかけ引きの瞬間も見ることができ、自然と人間とのかかわりをありのままに展示する博物館の工夫に迫る。

待ちの漁具をいかに魅せるのか

魚をとるための道具は、精緻であるが絵じて地味である。ここでいう地味とは、目を引くような色鮮やかさはないという意味である。

漁具のなかには、魚の習性を利用し、仕掛けのなかに魚を誘導してとらえる「待ちの漁具」とよばれるものがある。

筥や築に代表されるそれらの漁具は、魚が生息するところ、あるいは通過するところに設置され、魚をなかへと誘い込む。このため、漁師たちは魚が仕掛けの前で異変に気づかないように漁具の材料や形状に工夫を凝らす。「待ちの漁具」が地味なのは当然である。

漁具、特に地味な「待ちの漁具」をいかに展示場で魅せるのか。わたしはこんな思いを抱きながら博物館めぐっている、滋賀県立琵琶湖博物館における築漁の展示に心引かれた。

湖と人間とのかかわり

滋賀県立琵琶湖博物館（以下、琵琶



展示場の背景には知内川に張られた築の情景写真が展示されている



流れに逆らいながら泳ぐ魚を横から見るができる

博）は、「湖と人間」をテーマに研究する博物館として一九九六年に開館した。館内では、琵琶湖とその集水域の生態や歴史、人びとの暮らしにかかわる展示をおとして、湖と人間のかかわりをその両面から理解できる。

二〇一六年に開館二〇周年を迎えた琵琶湖博は、「琵琶湖の情報をリアルタイムで伝える」や「大人でも楽しめる」という理念のもと、リニューアル作業が進められている。二〇一六年七月には、魚を中心に淡水の生き物を展示する水族展示がオープンし、バイカルアザラシの展示やその日の琵琶湖のプラントクンが観察できる「マイクロバー」などが人気を集めている。二〇一六年の入館者数は四六万人を超えた。

このほか、湖魚の食文化に関する展示や、森のなかでコロニー（集団繁殖地）を形成するカワウと湖、森林とのつながりを紹介するためにカワウの糞尿の臭いを再現しているコーナーもあり、館員の研究成果を理解できる。



流れのある水槽のなかに復元されたカットリヤナ (掲載写真はすべて、同じ水槽を別の角度から撮影したもの。2017年)

そこに緊張感はあるのか

水槽の前に立つと、水が築を流れる音や泡立って白く見える波、流れに逆らって泳ぐ魚の姿など、展示物全体から動きや音を感じる。来館者は魚が生け簀に入る瞬間までわかり、緊張感をもって展示物を見ることになる。

緊張感。これこそが地味な「待ちの漁具」を魅せるために必要なのではないだろうか。考えてみれば、漁業というのは人と魚との知恵比べである。我われ人間に知恵があるかどうかは当日の

築漁の再現

リニューアルされた水族展示には、「下流域の魚たちと築漁」というコーナーがある。ここには、館内で唯一、流れを作ることができる水槽が設置されている。水槽の大きさは、長さ六メートル、奥行一・五メートル、水深四〇センチメートルである。水が流れる速度は毎秒三〇センチメートルである。

この水槽のなかに築の一部が再現されている。築とは川幅いっぱい杭や竹を敷設することで流れを堰き止め、遡上する魚を河岸に設けた生け簀まで誘導し、捕獲する漁法である。展示場にある築は滋賀県高島市を流れる知内川のものであり、地元ではカットリヤナとよばれる。カットリとは「掻き獲る」ということばから転じたものだ。

水槽のなかにはアユやウグイ、ハス、ニゴイなどが泳いでいる。水槽に流れを作ること、魚が水槽の上流域に「遡上」し、築に捕獲される様子を再現しているのである。実際、時期がよければ築を飛び越えようとする魚を見ることができ。

また、水槽の背後には知内川において扇状に張られた築の情景写真がある。この写真により、展示場の築と周辺の風景とが連続したかたちで見とれる。

漁獲物を見るまでわからない。シビアな世界であり、緊張の瞬間でもある。こうしたなか、漁師たちは魚の習性を研究し、より機能的な漁具を準備する。築漁の展示は、その現実をできるだけ現実のままに、漁具が実際に機能する瞬間を見せているのである。河川と漁具、魚を本来の組み合わせで再現するという展示の方法は、水族展示の専門家が所属する琵琶博でこそ可能である。

地味な漁具をいかに展示し、どのように来館者の注意を喚起するのか。琵琶博にはひとつの回答が用意されている。

動きや音により増幅される緊張感を皆さんもぜひ体験していただきたい。なお、展示期間は魚が遡上する時期にあわせて毎年四月から八月末ごろまでである。



展示場の出口に示されていることば。琵琶博は何のために存在するのかを来館者に考えさせる仕掛け

手仕事だから安い世界 ——インド北東部アッサムの野蚕糸から

上羽 陽子 民博人類文明誌研究部



エリ蚕糸による手織り風景。タテ糸は切れにくい工業製糸、ヨコ糸は手紡ぎ糸を用いている(2016年)

人が手で紡いだ手紡ぎ糸と、機械で紡いだ工業製糸。同種類の蚕の繭から紡がれた糸ではあるが、どちらの価格が高いのだろうか。日本での常識とは異なる基準で設定されるインドの絹糸の価格から、手仕事とは何かを考える。

野生の蚕

インド北東部アッサムでの出来事だ。「手紡ぎ糸よりも工業製糸が高いなんて」。一見するとどちらも均一な糸であるが、ここでは工業製糸の方が、よりまっすぐできない糸ということで手紡ぎ糸よりも高い価格で取引されている。調査地では、このような驚く出来事に会うことが多々あるが、これはわたしの手仕事への思い込みが引き起こすものである。

中国で古来より絹を生みだすために改良されてきた「お蚕さん(家蚕)」は知られているが、屋内飼養の家蚕に対する呼称である野生の蚕(野蚕)はなじみがないかもしれない。

家蚕と野蚕の大きな違いは、育つ場所だ。家蚕は長年の馴化の結果、野外では生存で

て自家用や販売用として用いられてきた。

手仕事品の価格設定

日本でも多くの手仕事を見る事ができるが、日本における手仕事品は、人件費が高いため、価格が高く奢侈品となりやすい。そのため日本では、手仕事という価値のあるものとしてとらえられることが多い。他方、インドの手仕事は、幅広い種類の原料が国内で入手可能であり、数多くの熟練工が活躍する一方で、熟練や経験を必要としない単純労働人口も豊富である。その結果、手仕事品といっても安価なものが現在でも多く存在している。冒頭で述べた手紡ぎ糸よりも工業製糸が高い理由は、エリ蚕の製糸を家内手工業的に安い賃金で女性が担ってきたためである。

細くて強度のある工業製糸は、手紡ぎ糸と比べると、製織時に切れにくい。そのた

エリ蚕とはどのような蚕か
アッサムにのみ生息する野蚕の原型種ムガ蚕をはじめ、エリ蚕、タサル蚕と実用価値がある蚕種が生育するインドは、野蚕の宝庫として知られている。飼料樹の多さと、家内手工業的な小規模の生産形態が、野蚕生産から布作りまでを支えている。冒頭で述べた手紡ぎ糸と工業製糸はいずれもエリ蚕によるものである。エリ蚕は、野蚕のなかでも一風変わっている。家蚕よりも強健で成長が早く、人工的に開発された飼料にも対応することができるのだ。現在は、アッサムをはじめ中国やベトナムなどでも生産されている。

そんなエリ蚕にも欠点がある。通常、ひとつの繭から家蚕であれば約一五〇〇メートル、野蚕であれば約五〇〇〜六〇〇メートルの長い一本の生糸を得ることができ。しかし、エリ蚕は、「ボ力繭」とよばれる繭層が軟らかい繭となるため、煮繭したときに長い一本の生糸を得ることができない。そのため、木綿や羊毛のような短繊維と同様に、繊維を撚り合せて一本の糸に紡ぐ必要がある。

アッサムでは、この手紡ぎ作業に村落の女性たちが内職的に従事している。紡がれた糸は、手織りによ



エリ蚕は約3日間かけて繭糸を吐き続けて繭をつくる(2014年)



エリ蚕の手紡ぎ糸(上)と工業製糸(下)(2017年)



ムガ蚕の繭を煮沸して生糸を挽き出す(2016年)

め近年、アッサムではエリ蚕の工業製糸化の開発が進んでいる。つまり、機械を導入した方が、その初期投資費用を回収するために高価になってしまっているのである。

これをふまえて、日本の手芸の世界を見てみると、アマチュアが作り手であり、特別な技巧が凝らされているわけでもない手仕事品が高価格で販売されていることがある。これは、日本の労働賃金に鑑みて、作り手が費やした時間や手間を価格に落とし込んだ結果であろう。一方で、時間や手間隙を加味せず、次の手仕事品を作るための材料費が出ればよいと思えるような価格設定のものもある。作られた時間や手間を勘案し、それを価格に置き換えるといった市場経済に慣れてしまった視点からすると、やや不可思議な世界にも映る。手仕事とは何か、を考える根源的な問いが手芸にはあるのだ。

外から来た名前



What's in a name?

 はま だ あきのり
 浜田 明範

関西大学准教授

異国でフィールドワークをおこなうときには、そこで暮らす人びとのことばにある程度習熟しなければならぬ。これは、人類学者に課せられた必修科目である。ガーナ南部の力才農村地帯で調査をはじめたわたしがまずとり組んだのも、チュイ語を覚えることだった。アサンテやアチム、アクアピンといったアカン系の人びとの母語であるチュイ語は、ガーナ南部の共通語として広く使用されていたからだ。

そのうちにわたしは、人びとがチュイ語の名前にそれほどこだわっていないことに気づいた。最初に違和感を覚えたのは、病気の名前を調べているときだった。マリリアのチュイ語を尋ねると多くの人はフラエ(huae)だと答えるのだが、フラエではなくてエブン(sun)だと述べる人があらわれたのだ。しかし、多くの人はエブンということばを聞いたことも無いという。調査を進めていくと、エブンの方がフラエよりも重篤であるとされていることがわかった。わたしたちの基準に照らせば、フラエは風邪のこと、エブンはマリリアのことだといえるかもしれない。調査地の人びとは、フラエとエブンを明確に区別する手段をもたないこともあって、エブンということばはほとんど忘れられているようだった。むしろ、マリリアという外来語の方が一般的に使用されていた。

外来語といえば、印象深いものがある。チュイ語では、日常的に使用する食材の多くは、たとえば外部からもたらされたものであっても、独自の名前が付

けられている。西アフリカ原産のアブラヤシがアベ(she)とよばれるだけでなく、大航海時代以降にヨーロッパを経由してもたらされたトマトはエントース(tos)とよばれる。しかし、ニンニクだけは、英語のガーリックという名前が使われていたのである。

そのことに気がついたわたしは、物知りだとされている小学校の教師や長老たちに「ガーリックのチュイ語って何？」と尋ねて回り、「ガーリックはガーリックだよ」という返答を受けとったうえで、「ガーリックは英語じゃん」とからかうという悪ふざけをはじめた。すると今度は、「ガーリックのチュイ語はアニオン(anion)だ」と言う人があらわれた。エブンと同じように、チュイ語の名前は忘れられており、外来語の方が一般的になっていたのである。しかし、話はそのほど単純でもなかった。アニオンということばを覚えてくれた若い小学校教師は、それがおそらくは英語のオニオンが訛まがったものではないかと教えてくれた。毎日のように食べられているタマネギの名前としてはジェエニ(green)が定着している。どこかで何らかのとり違えがあったのだろう。いずれにしても、ニンニクのチュイ語であるとされるアニオンも、もともとは外来語なのかもしれない。

名前は、忘れられ、思い出され、変化していく。外からもたらされたものに新しい名前が付けられ、古くからあるものの名が外来語に置き換わっていく。ものの名前を読み解くことで、独特の歴史を浮かび上がらせていくのもおもしろいかもしれない。

編集後記

今年はロシア革命100周年ということで、本特集を組んだ。じつは小生は、南太平洋の小島で起きた共産党設立運動をめぐるごたごたを単著で扱っている。かつて運動に参加していたメンバーのことで強く印象に残っているものに、「ところで共産主義ってなんなんだ。そんなに悪いものなのか」というのがある。設立者はともかくとして、まわりで付き従った村人にとって Kommunismus とは、みなで一生懸命一緒に働く程度の意味しかなかったようなのだ。かつてジャーナリストに「わたしは未来を見た」と言わしめたソビエト連邦が崩壊してから30年弱。しかしそれが残した足跡は、今でも遠く離れた地にまでおよんでいる。(丹羽典生)

2017年11月号「手芸考」の内容に誤りがありました。下記の通り訂正いたします。

P19の中段本文、前から10行目
 誤) 一九六四(昭和三一)年
 正) 一九五六(昭和三一)年

●表紙：シルエットはキルギスの首都ビシケクに残るレーニン像(協力：藤本透子)

次号の予告

特集

「ねこ」(仮)

みんなぱくをもっと楽しみたい 人のために—会員制度のご案内

国立民族学博物館友の会

本館展示の無料入館や特別展示の観覧料割引にくわえ、『月刊みんなぱく』や会員機関誌『季刊民族学』などの定期刊行物や、毎月の友の会講演会、セミナーなどを通して多様な文化の情報を提供しています。

みんなぱくフリーパス

1年間、本館展示へ何度でも無料で入館いただけます(特別展示は観覧料割引)。他にも、みんなぱくを楽しむための特典がいっぱいです。

国立民族学博物館キャンパスメンバーズ

みんなぱくと大学等教育機関との連携を図り、文化人類学、民族学にふれる学びの場を提供することを目的とした会員制度です。

詳細については、一般財団法人千里文化財団までお問い合わせください。
 (電話06-6877-8893 / 平日9:00 ~ 17:00)

月刊みんなぱく 2017年12月号

第41巻第12号通巻第483号 2017年12月1日発行

編集・発行 人間文化研究機構 国立民族学博物館

〒565-8511 大阪府吹田市千里万博公園 10-1
 電話 06-6876-2151

発行人 園田直子

編集委員 丹羽典生(編集長) 寺村裕史 三島禎子
 南真木人 山中由里子 吉岡乾

デザイン 宮谷一欒 長岡綾子

制作・協力 一般財団法人千里文化財団

印刷 能登印刷株式会社

*本誌についてのお問い合わせは国立民族学博物館広報係にお願いします。

*本誌掲載記事の無断転載を禁じます。



交通案内

- 大阪モノレール「万博記念公園駅」・「公園東口駅」下車、徒歩約15分。
- 阪急茨木市駅・JR茨木駅から近鉄バスで「万博記念公園駅(エキスポシティ前)」・「日本庭園前」下車、徒歩約13分。
- 乗用車は、公園内の「日本庭園前駐車場」(有料)から徒歩約5分。「日本庭園前ゲート」横にある民博専用通行口をお通りください。
- タクシーは、万博記念公園「日本庭園前駐車場」まで乗り入れてできます。

みんなぱくホームページ

<http://www.minpaku.ac.jp/>

みんなぱくフェイスブック

<https://www.facebook.com/MINPAKU.official/>

みんなぱくツイッター

<https://twitter.com/MINPAKUofficial>